

ふるさと探訪

[27]

平安時代の貞観五年(八六三)、真言宗寺院として

里町の仏南寺。ともに平安時代の作といわれる虚空蔵菩薩立像と大日如来坐像の二体(いずれも市指定文化財)を安置し、現在は臨済宗寺院となっている同寺の境内には、一つの祠(ほこ)

しよ、いわゆる夜尿症を治すのに御利益があるとして、地元では古くから信仰を集めてきた。「願」が成就すると、ちよつと変ったものを「をこのお地藏さんに供えることが風習と

仏南寺のお地藏さん

町里

かつては由良川のマシリ近くにあった地元の古老の話による

おねしよ治療に御利益が

「願」成就に「梯子」奉納の風習も

ら」が建っている。

して残っている。

と、このお地藏さんは八十

をそのまま川辺に置いてい

一方、お地藏さんを納め

祠の中に祭ってあるのは

それは梯子(はしご)。

年以上前には、由良川の

でも、翌日には元の場所に

る祠の後ろには、鳥居を型

一体のお地藏さん。住民の

梯子と言っても人が上れる

「マシリ」近くにあった。

必ず戻っていたそうだ。

どった細工が施されている

中には「日限地藏」という

ような大きなものではない

夏場、子どもたちが川へ

「寝小便のお地藏さん」と

る。その鳥居の下には丸い

人もいるが、正式な名前は

く、割りばし程度の木片を

「水浴び」に行く途中、こ

一般的に呼ばれるように

なった理由に、水遊びで体

分らない。また、お地藏

組み合わせた小さなもの。

のお地藏さんも一緒に川ま

が冷えた子どもが夜におね

混合の時代の名残か。地元

さんがいつからこの場所に

その段の数は、おねしよが

で運び、水に沈めたりして

しよをしないようにという

の人たちも首をかしげる。

置かれるようになったのか

治った時の子どもの年齢の

よく遊んでいたという。

願いが込められていたこと

が考えられる。

も定かではない。

数だけこしらえらるると伝えら

また、川での遊びを終え

て帰宅する際、お地藏さん

が考えられる。

(細見)

祠の中には数々の梯子が納められている



祠の後ろに施されている鳥居(写真は
いずれも里町で)

